

■ 全体講評

今回実施されたプロジェクトマネージャ全国統一公開模試午後 I の記述式問題は、各問題において適切な解答数で構成されていて本番の雰囲気のある問題がそろっていました。そんな中、白紙の解答はほとんどなく皆さんきちんと解答しています。しかし、設問の要求事項や問題文の解答ポイントがとらえにくく解答しづらい問題が散見されました。今回 60 点以上取れた人は自信をもって良いと思います。得点が芳しくなかった人は解答の要点や表現を見直す努力を心がけてください。

午後 I 試験では全 3 問の出題から 2 問を選択解答する必要があります。答案用紙に選択する問題を記すとき、きちんと 2 問選んでいない人、丸を付ける欄を間違えて採点欄に丸を付けている人がいました。これは解答以前の問題なのでくれぐれも注意して、指示どおり確実に問題選択することを心がけてください。なお、漢字の間違いや略字、問題文や設問文と国語論理的にずれた解答が見られます。また、単語レベルで説明不足の解答表現も見られます。特に設問要求に解答の表現が論理的に噛み合っているかに注意しましょう。

解答の背景や本筋が全く見当たらないような難問奇問のたぐいは、本試験では、まず出題されることはありません。したがって、午後 I の記述式問題の解答に当たっては、一般的な専門知識を前提に、問題や設問の意図や説明を十分に理解し解答を導いていくことが求められます。どうしても問題文や設問文に手掛かりが見つからないときにはそこで初めて、一般的知識による解答を考える必要があります。つまり、問題文や設問文には、解答の制約や手掛かりが必ずあると信じて取り組みましょう。解答の制約や手掛かりを適切に把握すれば、必然的に正解へたどりつくことができます。この手順に誤りがあった場合、例えば、一方的な思込みや自分自身の特定の経験に対するこだわりなどがあった場合、不正解になってしまうので、設問要求や問題の意図するところを読み取り、確実に言い切れるレベルの表現で解答していくことが重要となります。

正解したつもりで不正解になってしまった場合は、設問要求に沿っていない、問題文の手掛かりやキーワードに準拠していない、問題文の中で客観的にいえる範囲を超えている、あまりにピンポイントな視点であるという理由が考えられます。その内容自体は正しくても、その問題の正解としてはふさわしくないのです。不適切な解答の中で多いものは、解答のポイントや方向性は間違っていないのに、設問の考えや趣旨からずれている解答、

要求事項や指示に従っていない解答といえます。問題文や設問文に書かれている記述やキーワードは大きなヒントであり、解答の手掛かりの一部であることをしっかり理解した上で、設問要求に沿って適切な表現で解答をまとめるよう心がけてください。

また、解答欄に対してボリュームがあまりに少ない雑な表現、高度情報処理技術者としてのプロフェッショナル性を疑わせる俗っぽい表現、「そこまで限定して言い切れるのだろうか」と感じられる強引な解答表現や、いろいろなことを列挙してどれかが正解に引っかかることを期待するような解答は、採点者に対して心証が悪く、それだけで減点対象となり得ます。結果として正解とならないおそれがあるので注意しましょう。

論文系の区分の午後 I 試験は詳細なその試験区分の専門知識がなくても問題文の文脈と一般常識で解答が類推できる場合も少なくありません。PM 区分でも、受験されたほとんどの皆さんが、何らかのシステム開発プロジェクト業務に携わっていると思われ、直接の PM 経験がなくても、自身の業務経験と合わせて最後まで、あきらめず取り組み必ず合格するという強い粘りをもって臨むようにしてください。

<午後 I>

問 1 人材管理システムの構築

【採点基準】

【設問 1】

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点。

【設問 2】

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各 10 点。

【設問 3】

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点。

【設問 4】

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対しメンバ：5 点、理由：7 点。原則メンバが正解のときに理由の得点を認める。

【講評】

人材派遣業の人材管理システムの構築に関する問題でした。プロジェクトの環境や状況を俯瞰的にとらえ、問題文の文脈や設問の趣旨をよく踏まえて解答する必要があります。表現が揺れやすく悩ましかったと思われます。

選択した人は多かったのですが、解答要点をうまくとらえられず、得点を伸ばせない状況が散見されました。

設問 1 は、必要なデータの明確化が解答要点です。この点を明示的に示さないと不正解としています。表現が甘い場合、半分の得点としました。情報システム部門の要員についてしっかりとらえて表現しないと得点につながりません。注意しましょう。

設問 2 は、「営業部門のmatter」、「個人情報の漏えいリスク」の脈絡をとらえて正解としています。「個人情報の漏えいリスク」についての解答がなかなか出なかったようです。

設問 3 は、要件定義の完了に対する影響が少ない旨を表現して正解としています。この設問は比較的正答率が高かったようです。

設問 4 は正確に表現した解答は少なかったように思います。理由に明確な目的意識が欠ける記述が目立ちました。

この問題は、解答表現を絞るのが悩ましかったようです。解答の根拠を明確にしていくことが特に求められません。

問 2 プロジェクトの調達管理

【採点基準】

[設問 1]

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し意義：5点、文書化の目的：5点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し8点。

[設問 2]

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し a：4点、作業の内容：6点。

[設問 3]

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し5点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し5点。

[設問 4]

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。

【講評】

委託先の選定、調達管理を題材にした問題でした。本問は、記述でない解答を含んでいて比較的取り組みやすかったように思われます。問われた観点も典型的なもの

が多く、解答要点や設問要求の意味をしっかりと把握して解答すれば高得点も可能です。ただし、問題文に従ってその文脈できちんと解答しないと得点が伸びないので、適切な解答を確実に探していくことが求められます。

設問 1 は、「客観的な評価」、「適切な評価基準」、「証拠を残すこと」が解答要点になります。このポイントを押さえて正解としています。

設問 2 は、「プロトタイプ」、「通信インタフェース機能」が解答要点です。これらを明示的に解答して正解としています。

設問 3 は、PM 問題で頻出の観点の問題でした。正答率が高かったと思います。(2)は開発工数が増えることを除外して解答しましょう。

設問 4 も、頻出の観点の問題でした。設問要求をしっかりと押さえて準拠して解答するようにしてください。

問 3 プロジェクトのステークホルダマネジメント

【採点基準】

[設問 1]

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し a は 5 点、b は 5 点。

[設問 2]

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し5点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し10点。

[設問 3]

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し案件名：5点、理由：10点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し10点。

【講評】

ステークホルダマネジメントに関する問題でした。よく問われる観点で構成されていて、取り組みやすく、比較的適切に解答できています。要求されている解答が何かをよく考え解答表現する必要があります。

設問 1 は、人物を適切表現できていれば正解です。プロジェクトの体制についてしっかりと把握して解答することが求められます。

設問 2(1)は、問題文の文脈から把握していく必要があります。(2)は「上司や人事部門との連携」が解答要点です。表現が甘いと半分の得点にしています。

設問 3(1)の案件名は、「購買」を「購売」としている解答が驚くほど多かったです。逆の意味なので注意して

ください。理由は、内容を正確にとらえて正解としています。省いた表現は得点を半分にしています。(2)は、表現が雑で内容不十分な場合は半分の得点にしました。丁寧に表現するようにしてください。

記述式の解答に際して、設問要求や問題文を踏まえて「問われていることを客観的に確実にいえるレベルの表現で」解答をまとめることが大切です。極端にピンポイントな解答は避けましょう。くれぐれも自分の単純な感覚や経験で解答しないように注意してください。

また、解答表現としては、俗っぽい表現や稚拙な表現は避け、よりプロフェッショナルな表現を心がけてください。そうすることによって、採点者の心証がよくなり、得点力を高めることができますし、解答の実力を養っていくことにつながります。

なお、どの問題を選択するかは合格するための重要な要素です。3問から2問選択ですので、言い換えると「どの1問を捨てるか」ということになります。一見、解答数が少ない問題が楽そうですが、解答数が少ない分、配点が多いので得点率の変動が大きくなります。必ずしも有利とは言えないので、安易な問題選択は避けた方が無難でしょう。実際の問題の難易度は取り組んでみないと分かりませんが、問題文のテーマやドメイン、設問文の解答のしやすさなどを目安に迅速かつ適切に問題選択を行うようにすると良いでしょう。

以上